

専修学校職業実践専門課程 第三者評価モデル事業について 職業教育に第三者質保証が 求められる理由

川口 昭彦

専門職高等教育質保証機構 代表理事
大学評価・学位授与機構 顧問・名誉教授

2015.8

評価者研修

専修学校(職業教育)への期待と質保証・向上

2

- 21世紀の社会が求める人材像は？
- 高等教育のパラダイム・シフト
- 質保証文化の醸成・定着
- 保証すべき「質」とは？
- 大学等の認証評価制度
- 専門学校の質保証の方向性
- まとめ

21世紀の社会が求める人材像は？

社会のパラダイム・シフト:

産業社会から知識社会へ

日本の雇用環境の変化

QAPHE

社会のパラダイム・シフト

- 産業社会から知識社会へのパラダイム・シフト
- 学問や科学の進歩、先端化、細分化とサステイナブル社会 – 細分化した領域で産み出される知と社会が求める価値との乖離
- 予測困難な時代に向けて、想定を超える事態に対応できる新しい知に対する渴望
- 社会が人材に期待する資質・能力の変化(キャッチアップ型からフロントランナーへ)
- 職業教育および生涯学習に対する社会の期待

QAPHE

知識(基盤)社会(1999 ケルンサミット)

5

- 高度な知識技能を有する市民・労働者への需要
- 世界各国で知の創造と伝承の機関としての高等教育を重要視
- 世界各国(主として先進国)が高等教育改革を実行
- わが国においても教育改革が進行(ただし、大学改革が先行し、職業教育については遅れ気味)
- これらの教育改革に共通のキーワードは、第三者評価による「質保証」

QAPHE

知識社会とはどんな社会か？

6

- 知識には国境がなく、グローバル化が進む。さらに、職業選択の自由度が広がり、性別や年齢を問わず参画することが促進される(流動的)。
- 知識は日進月歩であり、競争と技術革新が絶え間なく生まれることになる。また、機会が平等に開かれることによって、成果をあげられる人とそうでない人の差が顕著となる(競争的)。
- 知識の進展は旧来のパラダイムの転換をともなうことが多く、幅広い知識と柔軟な思考力に基づく判断が重要となる。すなわち、一つの専門分野に固執するのではなく、他分野を自分の仕事に取り込むことが求められる(専門分化的)。
- 成果を産み出すためには、多様な専門家の協力が不可欠となる(チームとしての協調性)。

QAPHE

グローバル化

7

- **メリット：チャンスの拡大**
 - これまであった障害がグローバル化によって次第に取り払われることにより、チャンスが大幅に拡大する。
- **デメリット：不確定要素が増える。リスクが増大する。**
 - 関係する国、地域、社会あるいは人が増えることによって、これまでは想像もつかなかった事態が起こる可能性が高い。
 - そのリスクをどのように最小化するかが課題となる。
 - リスクが顕在化したときの対処の仕方が問われる。
 - 組織の柔軟性を維持できなければグローバル化を生き残ることも難しくなる。→リスクに柔軟に対応できる人材

QAPHE

知識社会と産業社会に求められる能力

8

知識社会	産業社会
人間力・時代を生き抜く力 ネットワーク形成力・交渉力 多様性 個性あるいは個別性 能動性 新しい課題に挑戦する意欲・ 創造性	基礎的な学力 協調性・同質性 標準性 共通尺度での比較可能性 順応性 知識量・知的操作の速度

これからの知識社会が必要としているのは、多様性、創造性、個性そして能動性に富む人材である。

QAPHE

日本の雇用環境の変化

9

- これまでの一般的な雇用慣行の特徴
 - 新規学卒者の一括採用、長期雇用を前提とした企業内教育・訓練
 - 学校においては基礎的な知識・技能を身につけさせて、職業に必要な専門的知識・技能は、主に企業内教育・訓練をつうじて、仕事をしながら育成
- 指導する人材の不足
 - 非正規雇用の増加により、企業内教育・訓練に割く時間を圧迫
 - 厳しい経済状況のもとで人材育成に割く費用・時間を縮小
 - 企業内教育・訓練を実施する動機づけが低下
- 企業が人材育成を行う余裕を失っている。

QAPHE

高等教育の基本的使命(社会の期待)

10

- 活力ある社会が持続的に発展していくために、専門分野に関する専門性を有するだけではなく、幅広い教養を身につけ、高い公共性・倫理観をもちつつ、時代の変化に合わせて積極的に社会を支え、あるいは社会を改善していく資質をもつ人材を育成する。
- 学修によって、どのような知識、能力、技能そして態度を獲得することができるか？
- 知識社会あるいは日本の雇用環境に適合した、学修成果、授業設計、カリキュラムなどが必要となる。

QAPHE

高等教育のパラダイム・シフト

「教育パラダイム」から「学習パラダイム」へ
「量の時代」から「質の時代」へ
「質保証」が求められる時代へ

QAPHE

高等教育のパラダイム・シフト

- 「教育パラダイム」から「学習パラダイム」へ
- 「教員の視点に立った教育」から「学生の視点に立った学習」へ
- 「何を教えるか」より「何ができるようになるか」へ
- 「授業内容や教育方法の改善」から「学習の質が向上したか、学修成果があがっているか」へ
- いかに学修成果を測定するか？ いかに説明責任を果たすか？

QAPHE

学習環境の変化

13

	教員中心の学習環境	学生中心の学習環境
クラスの活動	教員中心、一方向	学習者中心、双方向
教員の役割	事実の伝達者、専門家	協力者、しばしば学習者
指導の強調点	事実の暗記	関係性、問い、創造
成功として提示するもの	基準準拠	理解の質
評価	多肢選択	到達度評価、ポートフォリオ、パフォーマンス評価
テクノロジーの利用	ドリルと練習	コミュニケーション、アクセス、協力、表現

大学評価・学位授与機構大学評価シリーズ『大学評価文化の定着 日本の大学は世界で通用するか？』(ぎょうせい2014年)p. 30

QAPHE

次元の異なる質保証の対象

14

	具体的内容
インプット (投入)	教育研究活動等を実施するために投入された財政的、人的、物的資源をさす。
アクション (活動)	教育研究活動等を実施するためのプロセスをさす。計画に基づいてインプットを動員して特定のアウトプットを産み出すために行われる行動や作業をさす。
アウトプット (結果)	インプットおよびアクションによって、学校(組織内)で産み出される結果をさす。一般的に、数量的な結果を示すことが多い。
アウトカムズ (成果)	諸活動の対象者に対する効果や影響も含めた結果をさす。学生が実際に達成した内容、最終的に身につけたもの、刊行された論文の効果や影響などである。

QAPHE

高等教育質保証のパラダイム・シフト

15

- 「教育」重視、教員中心から、「学習」あるいは「学修」重視、学生中心へ
- 「インプット(入力)」「アクション(活動)」「アウトプット(結果)」中心の質保証から、「アウトカムズ(成果)」中心の質保証へ
- 「量(アウトプット)の時代」から「質(アウトカムズ)の時代」へ
- 入口管理(入学試験等)から、出口管理(卒業・修了判定)へ

QAPHE

16

質保証文化の醸成・定着

質リテラシーと質保証文化

「評価」の三つの機能

高等教育における保証すべき質

QAPHE

質リテラシー (Quality Literacy)

17

- 学校には、恒常的な質の改善・向上を図る能力が求められる。これには、つぎの二つの側面がある。
 - 組織文化的側面：質に関する価値・信念・期待・責務が組織内で共有されている(学内の共通認識)。
 - 組織運営的側面：質を向上し、構成員の協働体制やプロセスを有する(学内の運営組織)。
- 学校がもつべきは、「質の文化 (Quality Culture)」あるいは「質保証文化 (Quality Assurance Culture, QA Culture)」

QAPHE

質保証文化とは

18

- 質保証情報を自ら価値づけ、自らの責任で次の活動を選択していくこと。
- 質保証結果に基づいて、諸活動の質の改善・向上を図り、説明責任(アカウンタビリティ)を確保することが、社会的な流れとなっている。
- 「評価」は、「質保証」を行うための手段である。「評価」は目的ではない！

QAPHE

「評価」の三つの機能

19

- アクレディテーション (Accreditation) : 認証
 - ▣ 資格証明のための認証
 - ▣ 品質認証 (ISO・・・など)
- オーディット (Audit) : 監査あるいは監視
 - ▣ 法律やコンプライアンスなどに準拠の確認
 - ▣ 内部評価や調査の信頼性を確認
- アセスメント (Assessment) : 分野や対象、行為によって異なる意味 (環境アセスメント、看護アセスメント、ニーズ・アセスメントなど)

QAPHE

資格証明のための認証

20

- 対象 (ヒト、モノ、組織) が、ある資格を有するに足る水準に達していることを証明する。
- 技能や職業資格の認証 (国家試験、資格試験、民間組織独自の証明書)。
- モノについては、その商品の品質が、一定の基準を満たすものであることを検査や査定によって証明する。
- 組織については、当該組織が開業するに値する資格を有することを証明する。

QAPHE

高等教育におけるアクレディテーション

21

- 学校やプログラムが、一定の水準(地位)や適切さを有しているかを決定あるいは再認識するための評価である。
- あらかじめ設定された、教員資格・研究活動・学生の受入・学習資源などに関する最低限の基準に則して行う。

QAPHE

高等教育におけるオーディット

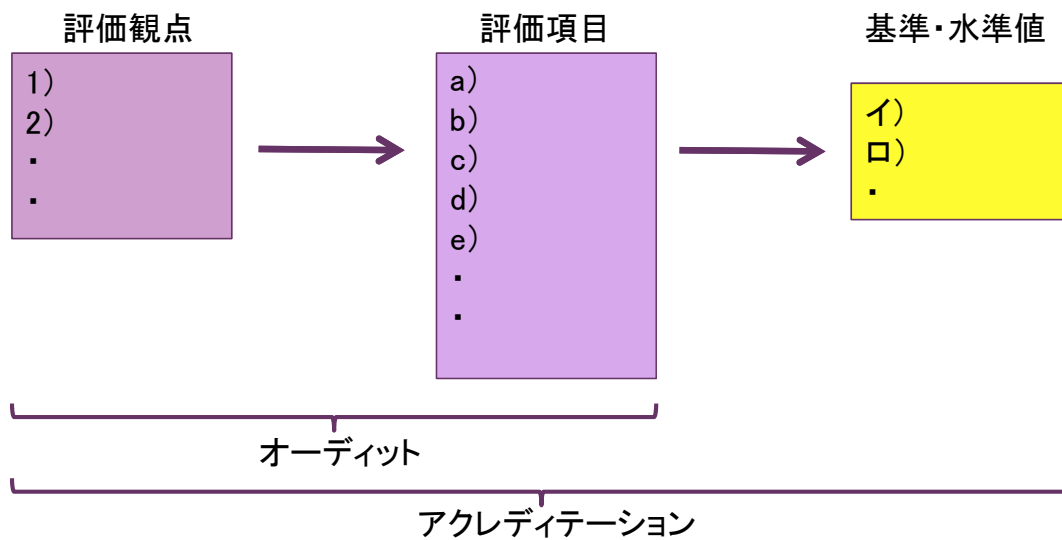
22

- 学校内部の質保証の取組みや手続き(責任所在、学内の意思疎通や調整作業等)の整備状況や効果についての点検である。
- プログラムレベルよりも学校(機関)レベルで実施されることが多い。

QAPHE

アクレディテーションとオーデイトの関係

23



QAPHE

高等教育におけるアセスメント

24

- 学校、教育プログラム、特定の構成要素についての測定である。
- インプット、アクション、アウトプット、アウトカムズに関して、学内外で設定された基準（ベンチマーク）に照らした質的・量的測定が行われる。
- レイティングを伴うこともある。

QAPHE

保証すべき「質」とは？

「質」に関する理解
質保証するための視点
高等教育の質保証システム

QAPHE

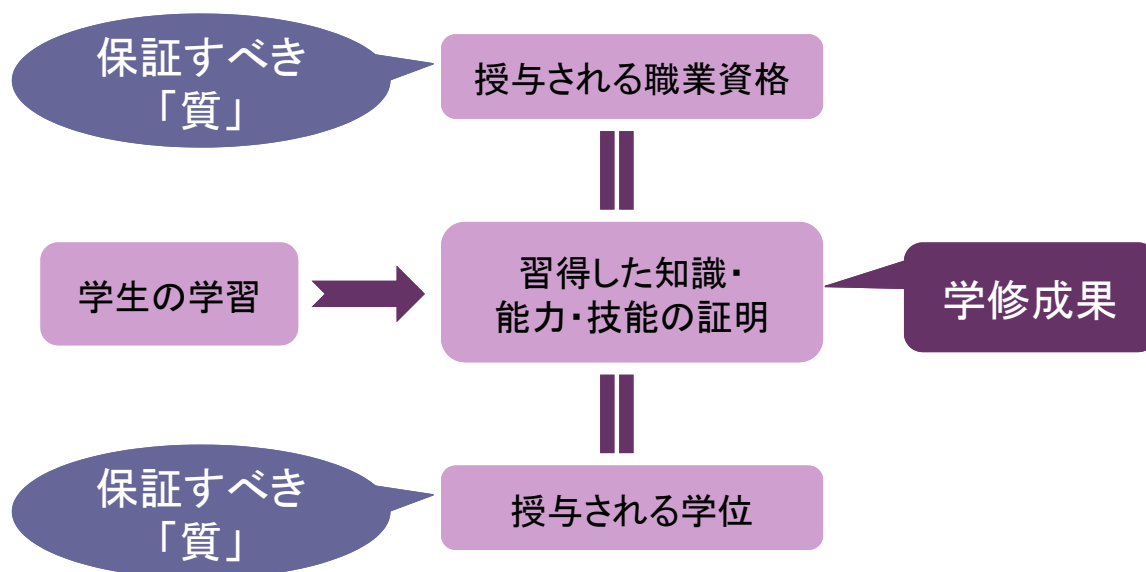
「質」に関する理解

- 決まった基準で判定する質であり、多様性という考え方が入る余地は少ない。質とは、欠点がないこと (zero defects) を意味する (製造業)。
- 欠点を最小限にすることのみならず、顧客に不満がないという視点が入る。質とは、顧客満足 (consumer satisfaction) を意味する (サービス業)。
- 高等教育 (職業教育) における質とは??

QAPHE

保証すべきは職業資格・学位の質

27



QAPHE

質保証するための視点

28

- 卓越性(高い水準の質)
- 基準に対する適合性
- 目的に対する適合性
- 機関の目標の達成度
- 関係者の満足度

QAPHE

学修成果とは？

29

- ある学習過程を終了した時に、どのような知識、技能そして能力を獲得することが期待できるかに関するステートメント（ECTS Users' Guide）
- 教育を語るための国際共通言語（あるいは国際共通通貨）

QAPHE

質保証の最重要課題は学修成果

30

- 教育 = 教授 (Teaching) + 学習 (Learning) であり、学生の学修成果 (Learning Outcomes) について社会に明示することが重要である。
- 期待される学修成果 (Expected Learning Outcomes) を明示する。
- その学修成果の達成状況 (Achieved Learning Outcomes) を定期的に分析する。
- その分析結果を社会に向けて発信するとともに質の改善・向上に資することが求められる。

QAPHE

大学評価とは
第三者による大学評価制度

QAPHE

「評価」という言葉への誤解

- 「評価」という言葉がもつ幅広い意味の認識が必要
- 「大学評価」は、大学の「世間的な評判」、「ランキング」あるいは「格付け」であろうか？
- 「ランキング」は、ある大学の一部分を取り出して、数値化したもの

QAPHE

大学評価とは

33

- 入口と出口のところのみでの評価
 - 偏差値に代表される入学試験の難易度
 - 就職のランキング
- 何を教えるのか？教育の水準は？学習成果は？（質の保証）
 - 在学中に得られる付加価値は？
 - どのような教育が行われ、その成果は？

QAPHE

大学評価の歴史的経過

34

- 大学設置基準の大綱化と大学自らによる自己点検・評価の努力義務(1991)
- 自己点検・評価の実施義務化、評価結果の公表義務化、外部評価の努力義務化(1998)
- 大学評価・学位授与機構の創設(2000)
- 学校教育法により認証評価(第三者評価)制度の導入(2003)
- 専門職大学院制度の発足(2003)

QAPHE

外部評価と第三者評価

35

- **外部評価**:教育機関が学外の評価者を選定し、その評価者に依頼して行う評価。評価項目は、教育機関側が指定するのが普通である。(学校関係者評価)
- **第三者評価**:評価対象となる教育機関とは別個の独立した第三者組織によって行われる評価。評価者・評価項目・評価方法などの選択を行うのは、評価対象となる教育機関ではなく、第三者組織となる。

QAPHE

第三者による大学評価制度

36

- 認証評価機関による定期的な評価の実施
 - 全学的な教育研究等の状況(機関別認証評価)
 - 専門職大学院の教育研究活動の状況(専門職大学院認証評価)
- 評価結果の当該大学への通知、公表、文部科学大臣への報告
- 認証評価機関の文部科学大臣による認証
- 認証評価機関に対する措置

QAPHE

認証評価

37

- 機関別認証評価
 - 機関全体(大学、短期大学、高等専門学校)が対象となる。
 - 7年ごとに評価を実施する。
 - 評価機関が定めた基準・方法等により評価を実施する。
- 専門職大学院認証評価
 - 専門職大学院が対象となる。
 - 5年ごとに評価を実施する。
 - 評価機関が定めた基準・方法等により評価を実施する。
- 認証評価以外の分野別評価:薬学教育、リハビリテーション教育、工学教育(JABEE)、医学教育

QAPHE

認証評価の目的

38

- 大学における教育研究などの諸活動の質を保証する。
- 大学における諸活動の質の改善・向上に資する。
- 大学における諸活動について社会的説明責任を果たす。
 - 第三者評価機関が果たすべき社会的説明責任:大学が実施している諸活動の質の現状分析と保証。
 - 大学自身が発信する情報だけでなく、第三者評価機関による評価結果も不可欠な情報である。

QAPHE

専門学校の質保証の方向性

専門学校の学校評価とその歴史
専門学校に求められる質保証
内部質保証システム
第三者質保証

QAPHE

教育の質保証

- 小学校・中学校・高等学校等では、学習指導要領等によって教育内容の一定の質が担保されている。
- 大学については、設置審査等でインプットやプロセスを明確に評価(事前規制)した上で、自律性と学問の自由の中で行う質保証(事後チェック)である。
- 専門学校は実践的な職業教育を目的とするものであり、職業に必要な能力、知識、技能、態度など(アウトカムズ)に係る質保証の視点を踏まえた評価が重要である。

QAPHE

専門学校の学校評価の歴史

41

- 自己点検評価・結果公表の努力義務(2002)
- 自己評価の実施、結果公表の義務化(2007)
- 学校関係者評価(保護者、地域住民等の学校関係者による評価)の努力義務(2007)
- 第三者評価の定義(学校評価ガイドライン[2010年改訂])
- 学校関係者評価が「職業実践専門課程」の認定要件(文部科学省、2014)

QAPHE

専門学校に求められる質保証

42

- 養成しようとしている人材像、期待できる学修成果などを明示する。
- 目的・目標としている人材像や学修成果が、どの程度達成されているかを定期的に評価する。
- 学校の質を自ら保証する内部質保証システムを構築し、それを十分機能させる。
- 積極的な情報提供(評価結果も含む)を行う。
- 第三者質保証では、その内部質保証システムが機能し、質の改善・向上が絶えず図られていることを検証する。

QAPHE

高等教育における質保証システムの構成

43

- 内部質保証
 - 高等教育の質の維持・向上、職業資格・学位の水準の保証については、第一義的には学校自身に責任がある。
 - 学校が「自己点検・評価のための自主的な評価基準や評価項目を適切に定めて運用する内部質保証体制」を構築する。
- 第三者(外部)質保証(公的な質保証システム)
 - 設置基準や関係法令等
 - 設置認可(事前規制)
 - 認証評価(大学の場合、事後確認)

QAPHE

内部質保証とは

44

- 学校が、自らの責任で自学の諸活動について点検・評価を行い、その結果をもとに改革・改善に努め、これによって、その質を保証すること。
- 一般的に、質保証とはステークホルダー(利害関係者)に対して、約束通りの財やサービスが提供されていることを証明し説明する行為をさす。高等教育の質保証の場合、当該関係者に対して、学校がめざす目標のもと、教育が適切な環境のもとで、一定の水準とプロセスで行われ、成果をあげていることを証明し、説明する行為をさす。

QAPHE

内部質保証システムとは

45

- 前スライドで定義された内部質保証を継続して行うための学内の方針・手続・体制等の仕組み。
- 教育の質保証の責任は、第一義的には学校自身にある。
 - それぞれの教育プログラムを提供する教員や部局自らがその質を保証する責任。
 - 学校として、その内部で提供する教育プログラムの質保証を行う責任。
- 同時に、教育内容や方法を創造的に進化・発展させ、継続的に質の向上を促進することが必要である。－ 質の文化(Quality Culture)

QAPHE

専門学校における内部質保証の要素

46

- 教育に関する目的・目標の設定、それらに対する点検・改善を継続的に実施する責任体制
- 自己評価：教育プログラムの定期的な自己点検・改善
 - 学習環境や学生支援の点検・改善
 - 教職員の点検・能力開発
- 学校関係者評価：質保証への学生や外部者の関与
- 教育に関する情報の収集・分析および教育情報等の公表

QAPHE

専修学校評価の三層構造

47

- **自己評価**:各学校の教職員が当該学校の理念、目的、目標に照らして自らの教育活動について行う評価
- **学校関係者評価**:生徒、卒業生、関係業界、専修学校関係団体、中学校・高等学校、保護者・地域住民、所轄庁などの学校関係者により構成される評価委員会等が、自己評価の結果を基本として行う評価
- **第三者評価**:学校から独立した第三者による評価基準等に基づき、専門的・客観的立場から行う評価

QAPHE

専門学校の第三者質保証システム

48

- 専修学校設置基準および職業実践専門課程の認定要件に適合していることを認定する。
- 学校(あるいは課程)が目的・目標としている学修成果が達成されているかどうかを評価する。
- 学校が機関内部の質保証体制を整備し、それが機能し、絶えず質の改善・向上が図られているかを評価する。

学修成果 + 一定の水準・標準 = 学修成果を基盤においた質保証

QAPHE

何のための学校評価か？

QAPHE

何のための学校評価か？

- 学校における諸活動の質改善・向上 (Quality Enhancement) と質保証 (Quality Assurance) が目的である。
- 「評価」は、上記の目的を達成するために必要な手段である。評価そのものが目的化してはならない。
- 評価文化 (評価情報を自らの責任で価値づけ、次の活動を選択していく) の醸成・定着が必要である (川口昭彦、2006年)。

QAPHE

Quality Assurance

Trust and Recognition

51

- Trust
 - ▣ 信頼、信用：社会の信頼(Public Trust)、相互の信頼(Mutual Trust)
 - ▣ (信頼により生じる)責任、義務
- Recognition
 - ▣ (人・ものをそれだと)認識、識別 ⇒ 個性化
 - ▣ (業績などへの)評価、称賛 ⇒ Evaluation
 - ▣ (組織・文書などへの法的な)承認、認可 ⇒ Accreditation

QAPHE

相互の信頼から社会の信頼へ

52

- 第三者質保証(評価)においては、学校と質保証(評価)機関の相互信頼(Mutual Trust)が、基本となる。
- 学校の自己点検・評価および学校関係者評価の積み上げを踏まえた第三者質保証(評価)でなければならない。
- 学校自らの「内部質保証」および第三者による「質保証」が、社会の信頼(Public Trust)につながる。
- 「質」の最も重要なものは、学修成果(学習者が身につけた能力、知識、技能、態度など)である。

QAPHE

専修学校職業実践専門課程 第三者評価モデル事業について 実務編

川口 昭彦

大学評価・学位授与機構 顧問・名誉教授
専門職高等教育質保証機構 代表理事

2015.8

評価者研修2

第三者評価モデル事業

2

- モデル事業に関する資料
- 第三者評価モデル事業の内容
 - 事業の目的(評価基準要綱)
 - 基本の方針(評価基準要綱)
 - 評価基準(評価基準要綱)
 - 対象学校における自己評価の方法および自己評価報告書の作成(自己評価実施要項)
 - 機構における評価の方法とスケジュール(自己評価実施要項および評価実施手引書)
- まとめ

モデル事業に関する資料

3

- 専修学校職業実践専門課程第三者評価試行 評価基準要綱
- 専修学校職業実践専門課程第三者評価試行 自己評価実施要項
- 専修学校職業実践専門課程第三者評価試行 評価実施手引書
- その他の資料

QAPHE

4

事業の内容

事業の目的

評価基準

スケジュール

基本の方針

自己評価のプロセス

QAPHE

事業の目的(評価基準要綱 p. 2/6)

5

- 専門職高等教育質保証機構が定める評価基準に基づいて、専修学校職業実践専門課程を定期的に評価することによって、その教育活動の質を保証する。
- 学校の教育活動等について多面的な評価を実施し、評価結果を当該学校にフィードバックすることによって、その教育活動等の改善・向上に資する。
- 学校の活動について、広く国民の理解と支持が得られるよう支援・促進していくために、その教育活動等の状況を多面的に明らかにし、それを社会に示すことによって、社会的説明責任を果たす。

QAPHE

基本的方針(評価基準要綱 p. 2/6)

6

- 専門職高等教育質保証機構が定める評価基準に基づく評価
- 学修成果(ラーニング・アウトカムズ)を中心とした評価
- 学校の個性の伸長に資する評価(学校の目的・目標を踏まえた評価)
- 自己評価に基づく評価
- ピア・レビューを中心とした評価
- 透明性の高い開かれた評価(意見申立て制度)
- 国際通用性のある評価

QAPHE

評価基準 (評価基準要綱 p. 3/6～6/6)

7

評価基準は、五基準から構成され、基準ごとに基本的な観点(24項目)が設定されている。

- 基準1 目的・目標の設定および入学者選抜(5項目)
- 基準2 専修学校設置基準および美容師養成施設指定規則の適合性(8項目)
- 基準3 職業実践専門課程の選定要件の適合性(3項目)
- 基準4 内部質保証(4項目)
- 基準5 学修成果(4項目)

QAPHE

自己評価のプロセス (自己評価実施要項)

8

- 学校の目的・目標の記載(p. 5/20)
- 基準1～5の自己評価(p. 6/20～7/20)
 - 観点ごとの分析
 - 優れた点および改善を要する点の記述
 - 概要の記述
- 自己評価書の作成(p. 8/20～9/20)
 - 学校の現況および特徴
 - 学校の目的・目標
 - 基準ごとの自己評価

QAPHE

「観点ごとの分析」の際の留意点

9

- 「基本的な観点に係る状況」については、目的・目標との関連を踏まえて、取組や活動の内容等の客観的事実を、根拠となる資料・データ等を示しつつ、具体的に記述する。
- 「分析結果とその根拠理由」は、それを導いた理由を、「基本的な観点に係る状況」に記載した取組や活動の内容等の客観的事実を示しつつ記述する。
- 根拠となる資料・データ等の例示は、p. 11～15/20を参照ください。

QAPHE

スケジュール(自己評価実施要項p. 10/20)

10

- 第三者評価に関する説明会(2015.2.26)
- 第三者評価の申請受付
- 対象学校の自己評価担当者に対する説明会・研修会(2015.5.20)
- 自己評価書の提出(2015.8末日締め切り)
- 訪問調査(2015.11)
- 評価結果(案)の対象学校への通知(2015.12)
- 評価結果(案)に対する意見の申立て(2016.1末日締め切り)
- 評価結果の確定・公表(2015.3下旬)

QAPHE